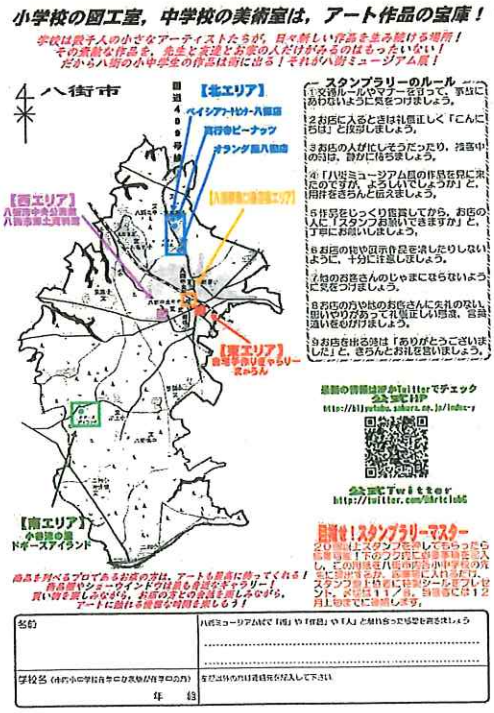
令和４年８月１７日

第７２次印旛地区教育研究集会

進路指導分科会　提案資料

研究主題

地域連携と連動させた社会人講話



第四部会　八街市立八街中央中学校

玉造　明男

地域連携と連動させた社会人講話

1　設定理由

（1）学習指導要領における地域連携

学習指導要領において、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携・協働によりその実現を図っていく。」（文部科学省 HP　2018/07/09　新学習指導要領について資料 4　これからの教育課程の理念）、「学校がその目的を達成するため、学校や地域の実態等に応じ、教育活動の実施に必要な人的又は物的な体制を家庭や地域の人々の協力を得ながら整えるなど、家庭や地域社会との連携及び協働を深めること。また、高齢者や異年齢の子どもなど、地域における世代を越えた交流の機会を設けること。」（中学校学習指導要領　第 1 章総則　第５の２のア）など、「社会」「地域」「連携」というワードは頻繁に使われている。学校教育と社会との関わりは、益々重要視されてきている。

これからの教育課程の理念

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携・協働によりその実現を図っていく。

＜社会に開かれた教育課程＞

① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。

② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。

③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

出典：文部科学省HP　2018/07/09　新学習指導要領について資料4

（2）八街市の連携教育

八街市は 20 年以上前より、幼小中高連携を初めとした様々な連携教育に力を入れてきた。これは学級、学年、学校という、閉ざされた集団で起こる諸問題を、子どもたちが地域や保護者など多くの人と関わることで乗り越えた歴史があるからである。こうした市全体での取り組みにより、連携の必要性や重要性を実感した多くの先生方は、教科、行事、生徒会活動、歌声活動、キャリア教育など、様々な教育活動の中に連携を取り入れようと模索し、一定の成果を上げてきた。

2003 年、八街中央中学校２学年の職場体験学習をきっかけに、八街市南口商店街より、落書き防止のためのシャッター画制作の依頼を美術部が受ける。同年 12 月に開始した毎週土曜日のシャッター画制作は、2007 年まで続き、計６作品を完成させた。八街市の図工・美術科と八街駅南口商店街との親密な関係はここから始まり、その後、2009 年、街全体を美術館に見立てたアートプロジェクト「八街ミュージアム（現在、印旛地区教育研究会第四部会図工・美術研究部主催）」の開催につながった。「美術は社会に、どう貢献できるのか」をテーマにしたこのプロジェクトは、徐々に規模を拡大し、コロナ禍直前の 2019 年 10 月（第 11 回開催）は、八街駅南口商店街の他、東西南北にエリアを拡大し、様々な店舗や施設に市内小中学生の図工・美術作品 400 点以上が展示された他、アーティストや美術教師による３つの個展を開催、市民文化祭との連携、演劇祭の開催（ゲスト：八街市出身、モロ諸岡氏）など、多方面に広がりを見せた。

しかし、2020 年３月以降、コロナ禍における様々な制限の中、自分の学校以外の児童生徒、自分の学校の職員以外の大人と関わる機会はほぼ失われ、八街市が力を入れてきた連携教育の多くが制限されることになった。

※八街ミュージアムは規模を縮小しながら継続している

第49回大学美術教育学会東京大会でおこなったポスター展示(武蔵野美術大学2010年9月18・19日)杉谷浩一（八街市立八街中央中学校）/玉造明男（成田市立成田中学校）/廣川政和（印西市立印旛中学校）による共同発表

（３）地域連携と連動させた社会人講話

現在、感染症対策を徹底しながら、徐々に様々な活動が可能となってきているものの、人との関わりを重視した連携教育や、この２年間で中止になった様々な活動の時間を、今からやり直し、全ての学びを補うことは困難である。だからこそ、限られた授業時間の中だけでキャリア教育を完結させるのではなく、身に付けさせたい力のために、様々な活動を柔軟に連動させて、効果的な学習を行う必要があると考える。

今回、社会人講話に焦点を当て、コロナ禍直前（全国一斉休校２週間前の 2020 年２月 13 日）に行った社会人講話（八街中学校２学年）と、コロナ禍直後（全国一斉休校中の 2020 年４月）に入学した現３学年が行った、校内高校説明会（八街中央中学校３学年、６・７月に）に社会人講話の要素を取り入れた試みについての研究を発表する。

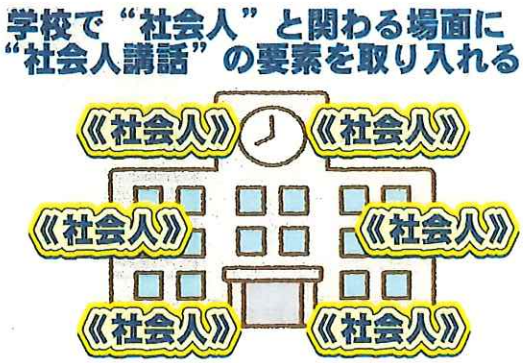
２　研究仮説

【仮説1】

地域連携で出会った魅力的な人を社会人講話に招くことで、生徒と街の双方に利のあるキャリア教育となるだろう。

【仮説2】

学校で社会人と関わる場面に、社会人講話の要素を取り入れていくと、多くの活動で効果的にキャリア教育が行えるだろう。



3　研究内容

（1）地域連携で出会った魅力的な人を社会人講話に招く【仮説1について】

①地域連携“八街ミュージアム”でつながった魅力的な人を、社会人講話に
（八街中学校２学年、2020 年２月 13 日実施）

地域連携“八街ミュージアム”で、街の人と関わる中で、多くの魅力的な人と出会うことができた。魅力的な人とは、「この街をもっと良くしたい」「街全体で子どもたちをよりよく育てていきたい」という、子どもや街に対してポジティブな感情を持っている人である。こうした人の多くは、ある職業に就きながら「＋αの顔」を持っている場合が多い。「＋αの顔」とは、「議員」「NPO 法人代表」「街づくりに関する積極的な関わり」「教育的な活動（専門学校講師、市民サークル講師）など様々である。まさに「自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっている人々」であると言える。

こうした魅力的な人と中学生が出会う機会をつくりたいという思いが高まり、コロナ禍直前、2020 年１月の社会人講話（２学年 155 人参加）は、７人の「魅力的な人」と生徒が直接会い、その考え方に直に触れる、実に学び多いキャリア教育となった。

A：分類【美容】　職業【美容師】

＋α【親と子の美容体験教室を企画、定期的に開催】

※街（駅前）でおこなう写生会で、近隣の店舗に挨拶をしに行った際、再会した卒業生

B：分類【生活くらし】　職業【不動産業】

＋α【コワーキングスペース(街づくりに特化した人が出会う場)経営】

＋α【駅前クラフトビール（地ビール）祭り企画】

＋α【街づくりスクール主催】

※八街ミュージアムに合わせてアーティストによる個展を開催　※卒業生、元生徒会

C：分類【クリエイト】　職業【ゲームクリエイター】

＋α【ゲーム専門学校講師】

※八街ミュージアムの個展をみに来たことで数十年ぶりに再会した、中学校時代の同級生。

D：分類【エンターテイメント】　職業【リゾート施設勤務】

＋α【街づくりスクール等に参加】

※大型リゾート施設でディスプレイを担当し、八街ミュージアムの展示に関わった。

E：分類【健康】　職業【理学療法士】

＋α【地域を健康から豊かにするNPO代表】

※街づくりスクールの参加者。

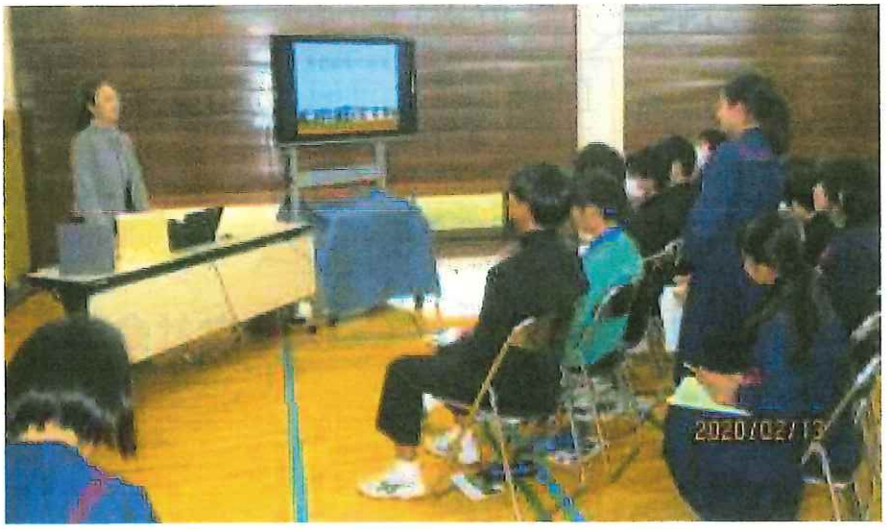
F：分類【教育】　職業【幼稚園教員】

※毎年、家庭科の幼稚園実習で関わっている。

G：分類【安全】　職業【消防士】

※毎年、教員の心肺蘇生法や、避難訓練の講師をお願いしている。

※以上７講座から、生徒は１人２講座を選択



②成果と課題

〔成果〕

・これまでの社会人講話は「その仕事に就くために、どの上級学校へ進むか？」「どんな資格が必要か？」といった視点を生徒に持たせていたが、今回、地域の魅力的な人との出会いを軸に企画し、事前学習を行ったため、社会人が「自分の力をどう社会に活かしているのか」という視点で授業に臨む生徒が多くいた。生徒１人１人が「自分の力をどう社会に生かしていくか」のヒントをつかむ、主体的で、実感をともう学びとなった。

・参加加していただいた社会人の方々は、どの方も良い表情で生徒と接してくれた。社会人講話の後、今後も学校に関わっていきたいという申し出を多く受けた。

※Ｂ【不動産業】、Ｄ【リゾート施設勤務】は、現在も地域連携“八街ミュージアム”に協力していただいている。

※Ｃ【ゲームクリエーター】と、GIGA スクール構想による １人１台端末環境が整った後に、ゲーム制作の技術を応用した美術科の授業を実施する話を進めていたが、コロナ禍で計画は中断している。）

〔課題〕

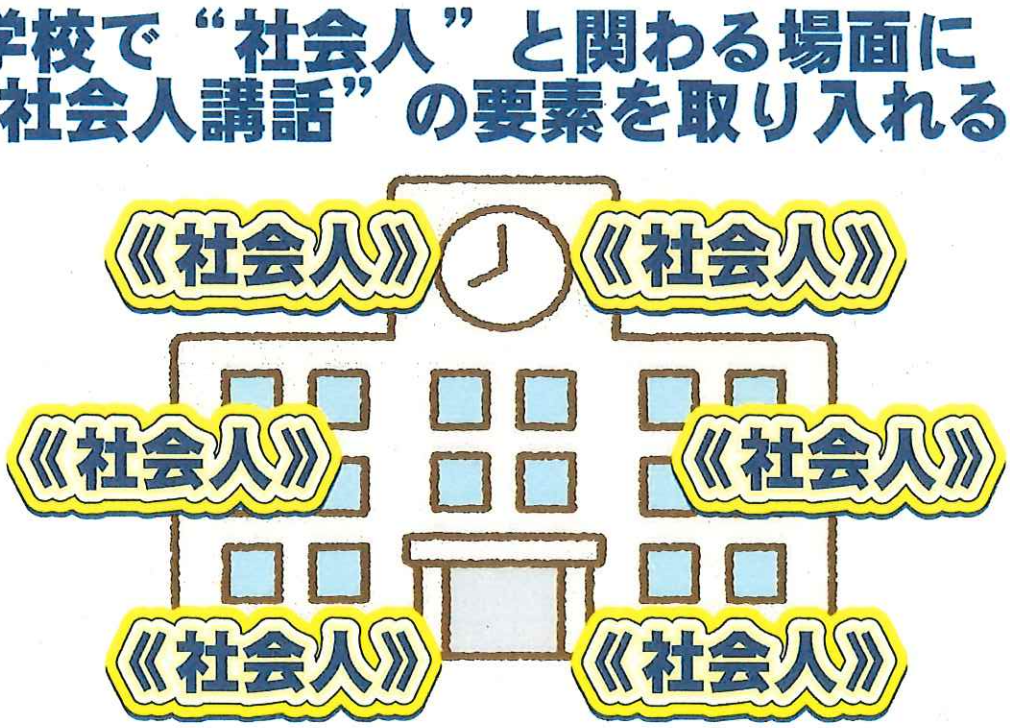
・社会人講話の内容や人選は、開催する学年に任されることが多い。毎年変わる担当学年や、担当教師の意欲や意識に左右されず、学校全体のキャリア教育として、継続的して質を高める努力が必要である。

（２）学校で社会人と関わる場面に、社会人講話の要素を取り入れる【仮説2について】

①生徒が社会人と関わる場面

学校生活の中で社会人と関わる場面がどれくらいあるのかを考えてみた。生徒が最も長い時間接する社会人は中学校の先生であろう。その他、学校に訪れた保護者、学校を訪れた高等学校の先生、修学旅行の事前学習に招いた旅行業者の方、部活動の外部指導員の方なども考えられる。生徒との接触は少ないが、郵便配達の方、宅配業者の方、給食関係の方、ゴミ収集関係の方なども、学校を訪れる社会人である。校外で行う学習活動に目を向けると、技術・家庭科（家庭分野）の保育実習で接する保育園の先生、旅行的行事で接する旅行業者の方、バスの運転手さん、ガイドさん、宿泊施設の方なども挙げられる。こうした、教科、領域、行事、部活動など、社会人と接する様々な場面を学びの機会と捉え、社会人と話を聞く場面、対話する場面をつくることで、効果的なキャリア学習となるのではないだろうか。

現在の中学３年生は、小学校卒業直前の３月に全国一斉休校となり、中学校での新生活が６月から始まった学年である。多くの行事は中止となり、特に校外での活動や、地域の方や他校の児童生徒と関わる機会はほぼ無いまま２年間を過ごしてきた。そんな学年であるからこそ、「すべての教育活動を通じたキャリア教育」の視点を多くの先生方が共有し、様々な教育活動と連動させながら、意図的・効果的にキャリア教育を実践する必要がある。



②校内高校説明会に社会人講話の要素を取り入れる
（八街中央中学校３学年、2022年６月～７月実施）

中学３年生にとって、今、最も話が聞きたい社会人、対話したい社会人は、高等学校の先生ではないかと考えた。毎年おこなっている「校内高校説明会」に、「社会人と直に接する機会」という社会人講話の要素を取り入れた。

【これまでの校内高校説明会からの主な変更点】

●校内高校説明会という名称から、学びの場であることを強調するため、進路学習会という名称に変更した。

●高等学校の説明を聞くだけでなく、多くの人と関わる学びの場であるという意識を、生徒、中学校の先生が共有して会に臨んだ。高等学校の先生にも、生徒の実態や会の目的を伝え、意識を共有した。

●体育館で一斉説明会から、互いに表情が見える少人数（学級）でおこなう双方向的な学びに変更した。

●１回で多くの学校を呼び、長時間開催する説明会から、毎週金曜の６時間目に、50分間の授業を５回開催することとした。日常の学習活動の中に高等学校の先生を招くことで、学びの要素を強めようと考えた。1回に２校とすることで、その日話を聞く高等学校や高校の先生との出会いを大切にさせようと考えた。

【協力していただいた高等学校】

第１回（6/10）：横芝敬愛高等学校、千葉県立八街高等学校
第２回（6/16）：千葉敬愛高等学校、千葉県立佐倉南高等学校
第３回（6/17）：千葉黎明高等学校、千葉県立四街道高等学校
第４回（7/ 8）：敬愛大学八日市場高等学校、千葉県立佐倉高等学校
第５回（7/15）：千葉学芸高等学校、千葉県立成東高等学校

計１０校（１５名）

令和４年度　第３学年　進路学習会⑤

【日時】
・７月１５日（金）
・講師の先生到着（校長室）１４：１５
・進路学習会、第６校時１４：３０～１５：２０

【学級担任の先生の動き】
・２校のデータ（動画・パワーポイント）を、事前に再生するパソコンにコピーしてください。
・各校のスタート時間に、資料（生徒人数分）を配布してください。
・千葉学芸高等学校は動画視聴後に、高校の先生による【説明・質疑等５分～１０分」を設けます。学級担任が進行してください。※事前に質問を用意しておくのも可
・千葉県立成東高等学校は資料の配付後、パワーポイントを使用した説明と質疑等を約１０分間行います。高校の先生が退出した後、各自で資料読み、振り返りを行ってください。
・学級担任が進行し、質疑等の後、生徒代表お礼の挨拶・号令をして終了です。

【講師の先生の動き】
・55 分間で１クラス 10 分、４クラスの説明会を行っていただきます。（担当職員が誘導します）

①千葉学芸高等学校（資料 ＋ 動画 ＋ 質疑応答） 0 ・資料配付（学級担任が資料を配付） 5 ・動画（学級担任が動画を再生） 10 15 **・質疑応答（動画終了後、講師の先生による説明や質疑応答をお願いします）** 20 25	１組→２組→３組→４組 様 様 様 【資料】 パンフレット 募集要項 その他 【動画】 １２分１７秒
②千葉県立成東高等学校（資料 ＋パワーポイント＋ 質疑応答） 0 ・資料配付（学級担任が資料を配付） 5 ・パワーポイント（学級担任の PC でパワーポイントを操作、講師の先生が説明） 10 **・質疑応答** 15 ・各自、資料読み、振り返り 20	３組→４組→１組→２組 様 【資料】 その他 【パワーポイント】

		３－１	３－２	３－３	３－４
チャイム→	14:30	①資料配付 ①動画	導入 ※調整	②資料配付	導入 ※調整
	14:35			②パワーポイントで説明 **②質疑応答**	
	14:40		①資料配付 ①動画		②資料配付
	14:45	**①質疑応答**		②振り返り	②パワーポイントで説明 **②質疑応答**
	14:50			①資料配付 ①動画	
	14:55	②資料配付	**①質疑応答**		②振り返り
	15:00	②パワーポイントで説明 **②質疑応答**			①資料配付 ①動画
	15:05		②資料配付	**①質疑応答**	
	15:10	②振り返り	②パワーポイントで説明 **②質疑応答**		
	15:15	振り返り ※静かに待つ		振り返り ※静かに待つ	**①質疑応答**
チャイム→	15:20		②振り返り		
チャイム→	15:25				

③成果と課題

〔成果〕

・１回目の進路学習会は、生徒も緊張しており、質疑応答の時間に質問が出ないなど対話的な場面が少なかったが、５回の学習会の中で積極的な質問や踏み込んだ質問が増え、対話的な学びとなった。
・校内高校説明会に社会人講話の要素を取り入れたことで、開催場所、時間、学校数など、身につけさせたい力を明確に意識しながら計画することができた。今まで以上に有意義な学びの場となった。
・社会人講話という視点で様々な活動や様々な人を見るようになり、キャリア教育に対する、教師側の意識は高まった。
・高等学校の先生からも、生徒の表情を見ながら話す機会はよかったよい評価をいただいた。
・充実した高校時代の思い出が、教師を志すきっかけになり、現在、母校で働いていることに誇りを持っていると、熱心に語る先生の話は印象的だった。

〔課題〕

・学習会を通して進路に対する意識が高まった生徒は多く、三者面談で保護者会らも同様の感想が聞けたが、社会人と接する機会と捉えた生徒の感想は、ほとんどなかった。
・事前に高等学校の先生に、多くの人関わる学びの場にしたいことを伝えたものの、社会人（高校の教師）が自分の職業（教師）や職場（高等学校）の魅力を語るという、社会人講話の意味合いを求めることは、やや無理があったように感じた。

4　まとめ

（1）【仮説1について】

街の人々は最も身近な生きたキャリア教育の教科書であるように感じた。社会人講話を単発的な学習とせず、日常的に行っている地域との関わりと関連づけることは、大切であり、効果的である。

街の人々の多くは、市内どこかしらの小中学校の卒業生である可能性が高く、学校に協力的な人も多い。街の人が積極的に教育活動に参加してくれることは、街全体が教育の主体者となり、街全体で子どもたちを育てることにもつながる。多くの人が教育活動に関わり、学校との接点が増えれば、様々な地域連携も円滑におこなえる。さらに、こうした「地域連携と連動させたキャリア教育」の中で育った中学生が、いずれ社会人になり、再び教育活動に参加してくれれば、理想的である。

（2）【仮説2について】

学校生活の中で社会人と関わる数少ないチャンスを、貪欲にキャリア学習につなげようという試みは良かったと思うが、どのように連動させるか、どのように効果があるかは、さらに研究する必要がある。本来の目的や、本来の活動の効果を損なわず、キャリア教育の要素を取り入れるバランス感覚が重要だと感じた。

今年度、進路学習会に招いた高等学校は、時間をかけて検討したものの、結果的に普通科に偏ってしまった。普通科以外の高等学校の中に、キャリア学習としての学びが多い学校もあると考えられる。生徒の実態、生徒の興味関心を大切にしながら、これまでの校内高校説明会のやりかたに固執せず、大学、専門学校、ハローワーク、地域の社会人など、様々な選択肢も含めた柔軟な視点で、来年度の進路学習会を考えていきたい。

来年度の進路学習会や、社会人と接する様々な場面（保育実習で接する保育園の先生、旅行的行事で接する旅行業者の方）で、短い時間でも、現在の職業についたきっかけや、その職業の魅力、自分の力をどう社会に生かしているのかなど、短い時間でも話す機会をつくってもらい、キャリア教育につなげようと考えている。